



## 院長コラム～謹んで新年のお慶びを申し上げます～



昨年はクリニックの外壁および防水の修理工事で、ご迷惑をおかけしました。やっと工事が終わりいつものように診療できるようになりました。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、数年前から週刊誌などで「ダメされるな！医者に出されても飲み続けてはいけない薬」「医者が飲まない薬、受けない手術」などの記事がみられるようになりました。患者様から「自分の飲んでいる薬は大丈夫

なのか？」と質問を受けることがしばしばあります。その都度丁寧に説明していますが、マスコミの力は強く、私の意見よりもテレビ、新聞、週刊誌の記事を信じて、薬を止めて悪い結果になった方も少なくありません。週刊誌の記事は少数の医療関係者の意見であり、偏った考え方が強いものが多いようです。ほとんどの医師は専門学会が作成した診療ガイドラインに従って診療をしています。それぞれの学会が会員のなかで特にその分野に精通している委員を選び、その委員により作成委員会が構成されます。日本および世界から、信用できる文献(論文には信用できるものと、そうでないものがあります)を集めて、それらを評価してガイドラインが作成されます。例として、高血圧診療ガイドラインをあげましょう。日本高血圧学会が作成委員会をたちあげ作成されています。作成委員は執筆委員40名、査読委員79名、リエゾン委員(関連する他の学会の代表)15名、内部評価委員10名、外部評価委員3名、顧問8名から成っています。単にエビデンスを機械的にレベル付けし推奨グレードをつけるものではなく、エビデンスの数と質、結論のばらつき、有効性の大きさ、臨床上の適応、害やコストに関するエビデンスまで加味されています。このようにガイドラインは最適な治療を提供するための標準的な指針と、その根拠を示すものであり、学会の総力を挙げて作成されています。さらに関係する他の学会からも認められたものになっています。また、ガイドラインは新しい情報を加味して数年ごとに改訂されています。したがって大変信頼できるものです。

治療ガイドラインに従って行っている当院の治療を信ずるのか、週刊誌の記事を信ずるのか、選択は明らかでしょう。